

●研究の概要

1 研究主題

ふるさとに誇りをもち 人とのかかわりを育む生徒の育成 ～ 交流力の育成を通して ～

2 主題設定の理由

本校の生徒はさきたま火祭りのボランティアにほぼ全員が参加するほど地域に愛着を持ち、地域と共に生きている。一方、埼玉小学校からほとんどがそのまま本校へと進学してくるため、人間関係が固定しがちで、新たな挑戦や目立つことを避け、人間関係づくりに消極的などの傾向が見られる。アンケート結果からも、地域社会への愛着は強いが、自己肯定感がとても低く、友達づくりを苦手とする生徒が多いことがわかった。

人は人とのかかわりの中で成長し、その成長とともに自分のかかわる社会を広げていくものである。そこで学校教育においても発達段階に応じて異年齢、異校種の子どもや地域の人々などと触れあう活動を設定し、体験（交流）活動を通して多様な人間関係を築いていこうとする態度の育成は特別活動の重点項目の1つである。また、よりよい人間関係づくりのための指導を意図的、計画的に推進することで、その効果を高めていきたい。これは車の両輪として取り組んでいくことで成り立つものである。

3 研究を通して育てたい力と研究仮説

育てたい力

- ・人とよりよくかかわる力（交流力、コミュニケーション力）
- ・自他のよさに気づき、多様な人の生き方に共感する力
- ・ふるさとに誇りをもち、大切にする力

研究仮説

日々の学級活動の中で人間関係づくりのための指導を進め、異年齢、異校種、地域との様々な体験（交流）活動を行うことによって、よりよい人間関係を築いていこうとする力が育つであろう。

＜具体的方策＞ (1) 「体験（交流）活動」

(2) 「人間関係づくりのための指導」

(3) 「小学校との連携」

計画的、組織的に実施する。

交流力とは

楽しく豊かな学校生活、社会生活を送るためには、よりよい人間関係を築いていくことが大切なことは言うまでもありません。人は人と交流することによって、時には失敗体験を重ねながらも好ましい人間関係を築き、社会性をはぐくんでいきます。

本校では、「交流力」を

『人と人、人と社会が有機的につながっていきける力、つながっていくことによって自己を高め、お互いを高め合う力』と定義しました。

本校では、交流力を高めることによって、相手に対しての不安や偏見等が、多くのかかわり（体験）を通して払拭され、互いのよさを認め、称えるというところまで生徒の態度を変容させることができるものと考えました。また、一つの交流が、「差違(違い)」に応じたかかわり方を身につけ、さらに豊かな人間関係を構築し、互いの「差違」を受け入れる寛容さや思いやりを醸成するということも、「交流力」の大きな意義だと考えました。

4 研究組織

